

科目名	小児看護方法論 (Child Health Nursing Methods)			科目コード	222
開講学科	看護学科	選択区分	必修	単位数 (時間)	2単位 (60時間)
科目区分	必修	履修時期	3年次前期	関連DP	看①②③④
担当教員	枝川 千鶴子、藤原 紀世子				
授業概要	さまざまな健康レベルにある小児とその家族 (同胞を含む) の、権利擁護に配慮した看護を実践するために必要な、基礎的知識と技術の習得を目的としている。小児期の特徴的な健康障害と看護について、発達課題の達成やセルフケア能力の向上など、成長発達を踏まえた看護について教授する。				
授業目標	小児の健康レベルに応じた看護を実践するために必要な、基礎的知識と技術について理解することができる。小児と家族 (同胞を含む) の最善の利益を考慮した看護について考えることができる。事例をもとに、疾患や障害をもつ小児の病態生理、成長・発達、家族の状況から、必要な看護を考え記述することができる。				

授業計画

回	項目	内容	担当者
1～4	小児の入院～退院、外来における看護	・小児の病気理解、小児の権利と必要な看護行為 ・健康障害や入院が小児と家族に与える影響、外来における看護	枝川千鶴子
		・検査や処置を受ける小児と家族の看護、プレパレーション	藤原紀世子
5～9	急性期にある小児と家族の看護	・小児によく見られる症状と看護 ・周手術期における小児と家族の看護、痛み緩和への援助	枝川千鶴子
		・小児の感染症と看護	藤原紀世子
10～13	障害がある小児と家族の看護	・発達障害児と家族の看護 (教育協力者)	枝川千鶴子 藤原紀世子
		・重症心身障害児と家族の看護 ・医療的ケア児を支える医療・福祉・教育の連携	枝川千鶴子
		・小児を対象とする訪問看護の実際 (教育協力者)	枝川千鶴子 藤原紀世子
14	小児看護技術 (1)	・演習：発達段階を考慮した説明・支援ツールの作成	枝川千鶴子 藤原紀世子
15～18	慢性期にある小児と家族の看護	・慢性期にある小児と家族の看護 (血液・造血器疾患、悪性疾患、腎・泌尿器系疾患)	枝川千鶴子
		・慢性期にある小児と家族の看護 (代謝性疾患、内分泌疾患、免疫・アレルギー性疾患)	藤原紀世子
19～24	小児看護技術 (2)	演習：輸液の援助、吸引 (口鼻腔・気管) 経管栄養、救命処置 (BLS) バイタルサイン・採尿 等 看護過程の展開 (グループワーク)	枝川千鶴子 藤原紀世子
25・26	看護過程	看護過程の展開 (グループ発表と質疑応答)	
27	救急処置を必要とする小児と家族の看護	小児の事故・外傷・誤飲・熱傷・溺水と看護	藤原紀世子
28	ハイリスク新生児と家族の看護	ハイリスク新生児の特徴と看護、家族関係促進への援助	枝川千鶴子
29	終末期にある小児と家族の看護	小児の死の概念、終末期にある小児の緩和ケア	
30	成人への移行期にある小児と家族の看護	成人への移行期にある健康障害をもつ小児と家族の看護 自立支援	
成績評価方法	定期試験 (80%)、レポート (15%)、授業に対する取り組みの積極性 (5%) で評価する。		
教科書	小児看護対象論、臨床病態学Ⅲで使用したもの 山元恵子監修「写真でわかる小児看護技術 アドバンス」 (インターメディカ)		
参考図書等	石黒彩子・浅野みどり編集「発達段階からみた小児看護過程」 (医学書院)		
授業時間外の学習について	小児看護技術に関する支援ツールの作成や、技術演習は少人数のグループワークによる予習を行なう。		
関連科目	155 臨床病態学Ⅲ、220 小児看護対象論、221 小児保健、233 家族看護論 本科目⇒223 小児看護学実習、245 総合実習、248 小児看護特論		
備考	授業はスケジュールの都合上、変更する可能性があります。		